

小平図書館友の会 会報51号



ネット公開版

発行日 2024年5月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世
ウェブサイト <https://kltomonokai.wixsite.com/my-site>
ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>
Eメール kltomonokai@gmail.com

ウェブサイト



ブログ



もくじ

第2回「チャリティ・ちょこっと古本市」	1
小平市立図書館 ハンディキャップサービスに おもうちょうこ	2
学習会報告 YA を楽しむ会 読書サークル・小平β 図書館について学ぶ会・ハンディキャップサービス学習会	3~4
図書館協議会 報告	4

第2回 チャリティ・ちょこっと古本市

3月24日(日) 10時から16時まで、小平市中央公民館ギャラリーで、第2回「チャリティ・ちょこっと古本市」を開催しました。

前々日22日に会場設営。前日23日(土) 10時から15時まで、市民からの寄付本を受け付けて、たくさんの本が集まりました。

販売日には、これまた多くの方々にご来場いただき、お買い上げいただきました。ありがとうございました。純益金は小平市立図書館へ物品寄贈の形で寄付します。



古本市 のぼり旗

◆ 古本市に参加して ◆

会員 真中弘子

かつて中央公民館ギャラリー前に9時前から人々が並び、長蛇の列を成す様子を目の当たりにした経験は私には皆無でした。開場と同時に人、人、人。

……テレビで観る某デパートの全国駅弁大会、もしくは福袋争奪戦のよう。担当を拝命した新書売り場も「あれよあれよ」と捌けていく光景は正に圧巻でした。お昼過ぎにようやく混雑は一段落しました。「紙の本」を好み求める人の存在がまだまだ大勢いることを認識した素晴らしい催しでした。

後片付けは1時間限定の緊迫感でしたが、諸先輩方の見事な采配のもと、皆一丸となった協力体制で、公民館のバックヤードも見られてお得感満載の体験を味わいました。

私事ながら、一度手離した「いわさきちひろ画集」3冊を特価で購入でき、思いがけない副産物に大満足。帰宅後に数えたら10冊も戦利品を得ていました。



3月24日 お客様でにぎわう会場

◆ はじめて古本市に参加して ◆

会員 関口久美子

友の会に入会して、はじめて古本市に参加した。幼少より近視になる程本が好きだった。時間と空間と人間が広大だった中国に夢中だった時期、サガンを気取って「ルネッサンスはお好き？」とヨーロッパに熱中した時期、本との付き合いで与えられた至福に感謝しかない。しかしこの古本市の3日の中で本との新たな付き合い方を教えていただいた。あらゆる形での押しつけがましくない広報。古本整理と運び出し。想像以上に重く危険な机による会場の設営と後片付け。寄付本の集本と選択。そして当日、本との出会いを求めている多くの方への対応。終了前にはストック本と廃棄本をそれとなくひそかに分別しなければならない。また、単行本はA行から作家ごとにそろえ、文庫本は興味と関心が集中するように展示、常に雑巾を持ち本を拭き続け整えていく作業など。古本市が始まって以来、その役割を黙々とこなし、慈しむとしか言いようのない本との付き合いをなさってきた皆さまに教えていただいた。有難うしかない時間だった。

◆ 売れ残った古本たち ◆

～チャリティちょこっと古本市に参加して～

会員 久保田文人

「これからタイムサービスです！」と声がかかった途端、会場の空気がざわつき、残り時間のうちになんか買わなくちゃ、という衝動が湧き上がった。売れ残った本の中には自身が寄付したものもあって、読んだときのことが思い出されて心残りもあったが、今回は、残本の多くは業者の手を借りて再循環されることになっており、良かったです。

でも、と最後に拾い上げた1冊の文庫本。一時あれだけ集中的に読み尽くしたはずなのに抜けていた書評集。こんなのがあったんだ。四半世紀がたち、評された本の多くはもう古本でないと読めないが、著者の語り口に久しぶりに魅了され、読んでみたい本がまだまだ沢山あったことを思い知らされた。

古本との出会いはいいものです。



小平市立図書館 ハンディキャップサービスに おもうちょう

羽鳥 富三

花小金井在住、羽鳥富三、見えない歴30年の視覚障がい者、全盲です。

2000年の定年を機に小平に戻ってきたころ図書館友の会と出会い、爾来20有余年経ちます。

視覚障がい者が利用できる図書館サービスには、どのようなものがあるでしょうか？

小平市では、小川西町図書館が障がい者担当館になっています。かつては大きな活字の本も少なく、文字拡大のために天眼鏡があり、まだ拡大読書器は設置されていませんでした。

花小金井図書館ができたころには、音声で読み上げる機能が付いた拡大読書器が普及して3階の読書室に設置され、便利に利用し読書を楽しみました。

花小金井図書館での対面朗読環境が整い、3館の設備を活用して三体詩の編集計画を実施しました。普及し始めていたガイドさんのiPadが大活躍！原稿をパチリ。OCRで文字認識。そのままメール送信。受信メールをテキスト保存。事務作業が大幅アップ。編集能率が格段に伸びました。

中央図書館では音訳初心者養成講座が実施され、当館登録の朗読ボランティアが誕生しました。社協を経由していた、朗読者の依頼手続きが簡単になり大いに助かりました。

しかしなぜか、利用者と支援者が、名刺交換など交流することは控えるように制限されました。支援者どうしや、利用者と支援者が自由に情報交流でき、自主研修できる環境は図書館サービスの資質向上につながります。それを阻む姿勢はサービス向上を阻害することと同じと考えています。強く改善を望みます。

対面朗読室については中央・大沼図書館に設置されました。今では、全ての地区館で、対面朗読が認められてきています。

仲町図書館の蔵書、『新訂 中国古典選 三体詩』を借りだし、花小金井図書館と仲町図書館や、中央図書館で音訳ボランティアの読み上げ支援で、パソコンに取り込んだスキャン原稿を見比べ、誤字脱字の修正作業をしていました。仲町図書館は9時から利用でき、Wi-Fi設備が整い、電源も利用でき便利でした。少

し遅れて中央図書館でも、Wi-Fi が利用できるようになりました。三体詩は、仲町図書館の蔵書でしたが、行方不明になり、武蔵野や府中図書館などからも借りていました。紛失について小平図書館に対応を聞いたこともあります。購入する意思はなく、反省の言葉も聞くことはありませんでした。本を大切に作る姿勢が乏しいと残念に感じています。

今回、国会図書館視覚障がい者サービス「みなサーチ」で、テキストデータをダウンロードで受け取ることができ、感謝しています。今年1月から、国会図書館では、新しい「みなサーチ」というサービスが案内されていますが、有益なサービスも視覚障がい者個人ではアクセスが難しく、利用できないサービスもあります。幸い、小平市は国会図書館に登録済みと聞きました。地域の図書館が、取り次ぎ役を担い国会図書館の膨大な資料から橋渡しサービスを積極的に取り回り、テキストデータのダウンロードを依頼し、借りだしが実現しました。前述の行方不明の『三体詩』が戻ってきてうれしい思いです。……の、つもりでしたが、パソコンで開いてみると、未編集の文章は期待はずれで、原本と、見える支援者がいないと難しいものを感じています。落ち着いて読み直せば対応できる個所もあるかもしれませんので読み返してみます。

一口に読書といっても、昨今では多様化され、電子ブックの利用者が増えています。他市ではすでにいくつかの図書館で市民サービスとして利用できる場所が増えていると聞いています。小平市でも、しっかり起案した積極的な予算要求で環境整備が急ぎ求められています。情報社会に対応し、更に活発な自主交流を認める環境に改善を推し進め、豊かに育まれた知識・技術に裏付けられた小平市の図書館蔵書が増えるのを楽しみに期待しています。

読書バリアフリーに関連し、レファレンスの回答をメールに書き込んで配信して頂く合理的配慮を要望しておきます。現在でも職員により配慮してもらえる場合がありますが、義務付けられている配慮です。市の職員でも対応する姿勢を心から願っています。

以上、見えない利用者からの、辛口の意見でした。

学 習 会 報 告

Y A を 楽 し む 会

Y A を楽しむ会は、月に1回、第4金曜日の午前中に、萩山の元気村で読書会を行っています。かたくりしい会ではなく、10人位のメンバーで和気あいあいと、課題本についてのおしゃべりをしています。課題本は月に2冊です。

Y A とはヤングアダルトの略で、中高生向けのティーンズ本のことです。子ども向けの本だから簡単かと思いきや、これがなかなか奥が深い。

例えば3月の課題本、岩波書店の『住所、不定』では、家賃が払えず、キャンピングカーでシングルマザーの母親と生活する少年が主人公になっています。母親は精神的に不安定で、せっかく見つけた仕事も長く続きません。この本を読みながら、ヤングケアラーと子どもの貧困という現代社会の抱える問題について考えさせられます。それでもラストに希望を持てるのが、子どもの本のいい所です。

新入会員随時受け付けています。

お気軽にどうぞ！！

(大山 容子)

～2023年11月から2024年4月までのテキスト～

- 11月24日 『貸出禁止の本をすくえ！』
アラン・グラッツ ほるぷ出版
『二年間の休暇』 J.ベルヌ 福音館書店
- 12月22日 『海を見た日』 M.G.ヘネシー
鈴木出版 課題本1冊
- 1月26日 『星屑すぴりっと』 林げんじろう
講談社 『小さなバイキングビッケ』
ルーネル・ヨンソン 評論社
- 2月16日 『あしながおじさん』
『続 あしながおじさん』 J.ウェブスター
福音館書店
- 3月22日 『住所、不定』
スーザン・ニールセン 岩波書店
『ぼく モグラ キツネ 馬』
チャーリー・マッケンジー 飛鳥書店
- 4月26日 『リバウンド』 E.ウォルターズ
福音館書店
『点子ちゃんとアントン』 エーリヒ・ケストナー
岩波書店

読書サークル・小平β

第1回を2022年7月17日に開催して以降、2か月ごとに行い2024年3月17日は第11回になりました。毎回、14名(うち女性2名)ほどの参加を得て第2あるいは第3日曜日の午後2時から2時間ほど、小平市中央図書館3階の視聴覚室で行っています。

課題本は、政治・経済・社会・言語・文学・歴史・科学など幅広い分野から千円程度のなるべく新しい新書を選ぶことを原則に、参加者が推薦された本を多数決で選んでいます。会の進行は、「推薦した方が報告者になり、まず課題本の紹介等を行い、その後、参加者から感想やコメントを述べてもらい、若干の対話をしていく」との流れです。多様な背景を持つ参加メンバーがほぼ常連化して来ました。毎回1、2名の入れ替えがあります。

「小平図書館友の会ブログ」に当日のレジメなどの資料がありますので、ぜひご覧ください。課題本に関係する本を読まればさらに、知識が深まり、視野が広がることと思います。

次回第12回は5月26日。課題本は、今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』中公新書 2023.5.24です。
(加本 実)

～2023年11月～2024年4月までの課題本～

- 第9回 2023年11月12日
山崎史郎『人口減少と社会保障—孤立と縮小を乗り越える』中公新書 2017.9.20
- 第10回 2024年1月21日
野口悠紀雄『プア・ジャパン 気がつけば「貧困大国」』朝日新書 2023.9.13
- 第11回 3月17日
倉本一宏『紫式部と藤原道長』講談社現代新書 2023.9.21

図書館について学ぶ会・ハンディ キャップサービス学習会

3月26日(火)に図書館主催のハンディキャップサービス交流会に協力団体として参加しました。この会は図書館のハンディキャップサービスについて、図書館職員の方々、障がい当事者、サービスに係るボランティア、ハンディキャップサービスに関心のある方々の情報交換の場です。

図書館のハンディキャップサービスには、録音図書(デイジー)の貸出、点字図書の貸出、対面朗読サービス、郵送による貸出、宅配貸出、布の遊具の貸出、などがあります。そしてそれを支えるボランティアの存在があります。利用実績や利用者の反応を伝えたり、ボランティアが意見を述べたり、障がい当事者の生の声を聞く良いチャンスとなっています。できるだけ多くの方の参加を呼び掛けるために、この会の広報に力を入れてほしいものと考えます。

学ぶ会は、学校図書館について勉強をしています。自治体によって学校図書館や学校司書の扱いに差があり、子どもの読書環境の確立は難しいようです。学校の中に図書館がある意味を考えていきたいと思っています。
(剣持香世)

小平市図書館協議会報告

今期、図書館協議会(以下、図書協)は、令和5年4月から1年を経過し、2年目に入りました。

任期が2年ですから、令和7年3月までとなります。図書協の議事は、「図書館運営状況について」「市議会報告」のほかにその時々状況報告があり、質疑があります。ここ数回、傍聴者がいらっしやることも嬉しい事です。

図書館協議会が終了すると、図書協として独自の研究課題を話し合います。課題は、年度末に提言書としてまとめ、図書館長に提出します(図書館ホームページ 運営方針サイト参照)。

今期の研究課題は「学校図書館」。令和5年度から、これまで「協力員」と呼ばれていた職種が「学校司書」となったことは、市報でご存じでしょうか。「学校司書」という名称になったことで、学校での役割がよりはっきりし、専門家として、司書教諭をはじめとする先生方から頼りにされる存在となるのではないかと期待しています。

(図書館協議会委員 伊藤規子)

— 小平図書館友の会 入会のご案内 —

本や図書館に関心のある方のご入会をお待ちしています。講演会や文学散歩、古本市などの活動、また読書会や勉強会もあります。年会費大人1000円。詳細はHPまたは表紙に記載の連絡先までご連絡ください。